NO. 5

2026年度　環境教育講座

整理番号:20251018

事業名	環境教育およびエコロジカルライフを実践するための講座開催事業
活動名	循環型社会の実現に向けた環境行動の実践に向けて

担当者	髙根　美保	主催団体	NPO法人エコライフはままつ
事業区分	講師派遣	事業サイクル	継続事業

活動の目的
「家庭ごみ減量の取り組み」の理解を深める。市民一人ひとりがごみ問題を「自分ごと」として捉え、具体的な行動変容や地域への啓発に踏み出すためのきっかけとする。

実施内容	
活動日時	2026年10月18日（日）13:15～15:00
活動場所	浜松市立西部清掃工場　えこはま　会議室（浜松市中央区篠原町26098-1）
活動者名	髙根美保
詳細	テーマ:循環型社会の実現に向けた資源循環の強化 座学講:ごみの定義と基礎知識: 廃棄物処理法の概要と法律・制度の基本構造 容器包装リサイクル法:資源循環における法律の役割 3R行動:日常生活で今日からできる具体的なアクション

事業の成果	参加者　16名　焼津豊田第10自治会 配布物:雑がみチラシ・ｸﾘｱﾌｧｲﾙ・回収袋・家康くんﾏｸﾞﾈｯﾄ、ｽｯｷﾘ・ｴｺ自慢、ｱﾝｹｰﾄ、3R宣言 ＜背景＞今回の視察は、新施設「クリーンセンター志太」の本格稼働（2026年9月）という、本市のごみ処理体制が大きく転換した直後の重要なタイミングで実施された。 **＜見学者からの主な意見・感想＞** 活動の分かりやすさや環境教育の重要性を評価する声が多く寄せられ、今後の日常生活や学習活動への高いモチベーションが見られた。 ･環境問題について深く考える契機となり、非常に有意義であった。環境教育の重要性を再認識した。 ･説明が分かりやすく大変勉強になった。本日学んだ内容を、今後の日常生活や社会科等の学習活動において積極的に活かしていきたい。 **＜3R宣言の集計・傾向＞** 参加者各自が日常生活で実践する具体的な環境行動として「私の3R宣言」を記述した。内容の傾向を「3R」に分類し、以下に抜粋する。 ①リデュース:生ごみの減量や不要なものの購入抑制など、最も多くの具体的なアクションが挙げられた。 ･食品の食べ残しを削減し、ごみの総量を減らす。 ･生ごみの廃棄時に必ず「水切り」を徹底する。 ･生ごみ処理器「キエーロ」やコンポストを活用し、野菜くず・果物の皮などの生ごみ激減および意識改革を継続する。 ･不要なものや無駄なものは購入しない。 ･コンビニエンスストア等でのレジ袋辞退（エコバッグの持参）を徹底する。 ② リユース:物品の長期利用や衣服の循環に関する意識が見られた。 ･物品を一度限りにせず、繰り返し使用する。 ･不要となった衣類等は廃棄せず、他者がリユースできるよう適切な譲渡・回収ルートの活用に努める。 ③リサイクル:分別の精度の向上や、資源化へのひと手間を惜しまない姿勢が示された。 ･ごみおよび雑がみの分別を徹底し、資源の有効活用に貢献する。 ･包装プラスチックと生ごみを確実に分別する。 ･可燃ごみとして排出しがちな食品容器やビニール袋などをきれいに洗浄し、プラスチック等の「資源ごみ」として正しく分別・排出する。 **＜まとめ＞** 見学者から出た「生ごみ処理器『キエーロ』の活用」や「徹底した水切り」という宣言は、市の燃やすごみの約3割を占める生ごみの減量という行政課題にダイレクトに合致するものである。さらに、「組長会を通じて正しい出し方を指導する」といった地域コミュニティ発の宣言が見られたことは、市が展開する「環境にやさしい市民運動」の理想的な波及実例といえる。





